

## 第7回刈羽村景気ウォッチャー調査 概況

1. 調査日 令和7年10月30日
2. 調査対象  
対象事業所数 146事業所 (商工会法定会員)  
回答事業所 98事業所 (回答率: 67.1%)
3. 調査対象時点 令和6年4月～令和6年9月期を対象とした。
4. 調査方法 刈羽村と共同で実施し、商工会で調査票を対象事業所に配布し、令和6年11月13日までにFAX等により回答いただいた。調査集計は刈羽村産業政策課で行った。

### 5. 概要

調査期間内において、売上、営業利益の項目は横ばい傾向で、コロナ禍後の改善傾向に歯止めがかかっている状況です。一方、設備投資に関しては、小規模な設備投資を中心に活発化しており、今後もこの傾向が続く見込みです。総じて、原材料価格高騰に伴う物価高の影響から停滞感と見通しへの慎重な傾向が見受けられます。

また、経営課題、悩み事の調査項目では、「原材料、資材の高騰」「人手不足」との回答が上位を占めており、建設業、製造業を中心に人手不足感が顕在化しています。

#### (1) 売上高

直近6ヶ月の合計売上高については、回答事業所の約57.1%が前年同期に比べて「増加した」と回答しており、前回調査(約57.4%)に比べ横ばい状態です。一方、今後6ヶ月の売上見通しについては約40.8%が増加すると回答しており、前回調査(約58.4%)よりも17.6ポイントと大きく減少しており、改善傾向に歯止めがかかっています。

#### (2) 営業利益

営業利益は、直近6ヶ月と前年同期との比較については回答事業所の約27.5%が「増加した」と回答していますが、前回調査(約29.7%)に比べて

2.2 ポイント減少しています。また、今後の見通しについては、回答事業所の約 21.4%が増加すると回答しており、前回調査（約 17.8%）に比べて 3.6 ポイント増加しています。一方で、「変わらない」と回答する事業所が直近との比較で約 32.6%、今後の見通しで約 40.8%と増加傾向であり、慎重な景況感が見受けられます。

### （3）設備投資

設備投資については、実施した事業者が約 40.8%と前回調査（約 37.6%）に比べて 3.2 ポイント増加しており、動きが活発化しています。また、設備投資の多くは、100 万円～500 万円の中小規模な設備投資となっています。一方、今後の見通しでも約 42.8%が設備投資を予定しており、積極的に動きが継続しています。

### （4）経営課題、悩み事

前回調査と同様の傾向で、経営上課題・悩み事の上位 3 項目には「売上高、営業利益の伸び悩み」「原材料、資材、光熱費の高騰」「人手不足」が多く示されており、固定化しています。今期においても、「人手不足」との回答が約 26.3%と最多となり、前回調査（約 25.6%）に比べてさらに回答数が増加しました。自由記述欄においても建設業、製造業を中心に人手不足への困窮感強まっています。

また、「原材料、資材、光熱費の高騰」と回答した事業所の内、原材料（資材）と水道光熱費の上昇感についてお聞きしたところ、原材料、光熱費共に高騰率は「+100%～+150%」が全体の約 80%以上を占めています。「+150%～+200%」との回答は 1 割以下程度に留まっていますが、前回調査に比べて横ばい状態が続き、依然として今後の注視が必要です。